大館の歴史散歩

羽州街道・上（川口村～大館城下）

峠・坂里の道 ⑨

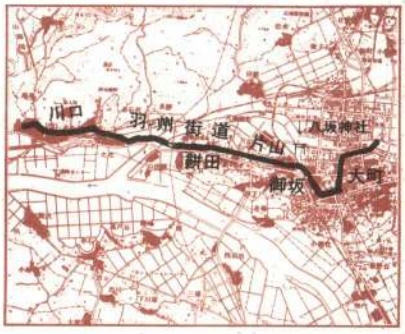
羽州街道の名は、出羽国（現在の秋田・山形両県）を縦断するところに由来している。奥州街道を福島で分かれ、山形を経て院内杉峠から秋田藩領に入り、久保田に至る。久保田から北へは、桧山（能代）、綴子、大館を通って矢立峠まで至る秋田藩領内最長の街道である。

この街道には橋が少なく、川幅が広くなると船渡しであったほかは、ほとんどが徒渡りであった。享和三年（一八〇三年）、この街道を通った伊能忠敬は、『測量日記』に「道甚悪し夫より矢立峠なり」と記している。

▲神明社へ向う御坂の道

この街道は、大館市域では川口、大館、釈迦内を通って下内川沿いを逆上り、矢立峠を越えて津軽に至っている。

川口村を縦貫、立花を抜け、現在の餅田橋の少し下流で長木川を渡り、餅田集落へ入る。片山野を通り御坂へ継ぐ今の国道は、羽州街道を拡幅整備したもので、道筋には今も「街道向」「大道北」「大道添」などの小字が残っている。この街道よりもっと古くは、餅田団地から二ッ山のふもとを巡り、立杭、片山を経て御坂に至る、片山野北縁を通る道があった。片山には、京都の八坂神社から勧請したことから「祇園社」ともよばれ、奉納相撲で知られた「八坂神社」がこの古道沿いに鎮座する。



御坂からは南東に進路を変え、神明社前から左折して、足軽町（現在の常盤木町）を経て大館城下へと入る。新町・足軽町辻を北へ折れ、鍛冶職人が居住した鍛冶町、古くからの商業地である大町と進み、田町のはずれで右折して川原町を東進。中世浅利氏の家臣が、大館佐竹氏に仕え住んだことから町名がつけられた独鈷町を経て、通り町の水分神社付近から長木川を渡って対岸へ至る。

（参考資料・「秋田県文化財調査報告書」北部羽州街道）

市役所史跡探訪会

私の本棚

中央図書館新着図書

「レオナルド・ダ・ヴィンチの迷」
斎藤　泰弘著　（岩波書店）

ルネサンス期の大天才の出生から青年時代までの前半生を、学問的実証で裏付けながら、リアルに浮き彫りにした作品。虚像をはぎ取り、等身大の人間レオナルドをあぶり出す。

―― **一般書** ――

◇フランケンシュタインの娘（唐十郎）◇原始人（筒井康隆）◇ロシアにおけるニタリノフの便座について（椎名誠）◇彼女と彼（落合恵子）◇風が吹いたら（池部良）◇父のいる食卓（本間千枝子）◇秩父事件の女たち（保高みさ子）ほか

―― **児童書** ――

◇ググとともだち（礒部晴樹）◇ふゆのうま（手島圭二郎）◇金のゆき（梅宮英亮）◇海のメダカ（皿海達哉）◇ティナのおるすばん（I・コルシュノフ）◇月の狩人（G・ホイク）◇めくらぶどうと虹（近藤弘明）ほか

◈12月のテーマ関連図書コーナーは『楽しい食卓』です。

◈親子読み聞かせ会は毎週金曜日、午後2時30分から

◈中央図書館の休館は12月20、24、28日～1月4日

身近な薬草

畠山　敏

（花岡町神山　元農業改良普及所長）

チクセツニンジン

利用部分（根茎）

奥地の樹林に自生しているウコギ科の多年草である。

茎の長さは五〇～六〇㌢程で、葉は五つの小葉からなり、葉縁にはギザギザがあって地上部は朝鮮人参によく似ている。

また、地下茎の形状は竹の根茎に似ていることから地域によっては節人参ともいわれており、淡黄色で横にはい、一年に一節ずつ伸びる。

本県では八幡平、森吉山、鳥海山のふもとなど、奥羽山系に自生分布が見られ、そのほとんどが野生採取で本県が主産地とされている。

薬用部は根茎で、乾燥して用いられる。主として強壮剤、健胃剤、去痰剤、解熱剤としての効用があるほか、ニンジン酒としても利用されている。

ハトムギ

利用部分（果実）

東南アジア原産のイネ科の一年草で、国内各地で栽培されている。特に本県の県北地域では、転作作物のひとつとして多く栽培されている。

栽培には砂丘地などの過乾地以外は土質を選ばず、むしろ生育中期以降は湿地に強い特性をもっている。

七月から八月にかけて葉の間から花穂を出し、楕円形淡褐色のジュズダマに似た実を結ぶが、その実は柔らかい。

昔からハトムギは「イボ」取りの妙薬として重宝されているほか、神経痛、滋養剤、美容剤（シミ取り）として用いられている。

最近は栄養価の面からも重要視され、ハトムギ飯、ハトムギ味噌、ハトムギしょうゆなど、健康食品として加工利用が高まってきている。

おことわり・「身近な薬草」と四面の「おいし～いがっこ」は、毎月一日号に掲載していますが、一月一日号は新年特別編集となりますので、今号でお届けしています。

◇12月は固定資産税（第3期）の納期です。
――税金は納期内に納めましょう――